

日医ニュース

No. 1356
2018. 3. 5

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



日本医師会キャラクター「日医君」

- ピックアップ**
- 第6回「日本医師会赤ひげ大賞」表彰式 2~3面
 - 「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」を開催 4面
 - 平成29年度日本医師会医療情報システム協議会 5面

中央社会保険医療協議会総会

平成30年度診療報酬改定に関する答申まとまる

今日の総会では、厚生労働省事務局からこれまでの議論を踏まえて作成された個別改定項目、いわゆる短冊に具体的な点数を盛り込んだ答申案が示され、診療・支払両側がこれを了承。答申書には、(中略)入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。等、20項目からなる附帯意見が付けられることになった。

答申の取りまとめを受けて、診療側を代表して意見を述べた松本純一常任理事は、まず、中医協の議論について、「燃えるような情熱を持って臨んだ」とする一方、「議論を終えて、今は自分に対し煮えくり返るような感情でいっぱいである」と述べるなど、より充実した議論ができた可能性もあったのではないかと、また、今後の展望として「地域医療構想のの下、無理に病床の削減を図らなくとも、人口減などで確実にベッドは減っていく。すなわち、医療費は減少傾向を辿る」との認識を示した。

なお、日医では、今回の答申取りまとめを受け、改定の内容を伝達することを目的とした、都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会を3月5日に開催することとしている(本紙4月5日号で詳報の予定)。



中医協総会が2月7日、厚生労働省で開催され、平成30年度診療報酬改定に関する答申がまとまり、田辺国昭中医協会長(東京大学大学院法学政治学研究科教授)から加藤勝信厚労大臣(代理:高木美智代厚労副大臣)に提出された。これを受けて日医では、同日、日本歯科医師会、日本薬剤師会及び四病院団体協議会と共に、相次いで記者会見を行い、横倉義武会長が今回の改定に対する日医の考えを説明した。

三師会合同記者会見

少ない改定財源の中
一定の評価ができた
と認識 横倉会長

三師会合同記者会見には、横倉会長、堀憲昭日歯会長、山本信夫日薬会長(代理:森昌平同副会長)を始め、中川俊男副会長(中医協委員である)、今村聡副会長、松本純一・松本吉郎両常任理事、遠藤秀樹日歯常任理事、安部好弘日薬常務理事が出席した。

横倉会長は、「国民が生涯にわたり健やかでいきいきと活躍し続ける『人生100年時代』を見据えた社会を実現していくためには、国民皆保険を堅持しつつ、持続可能な社会保障制度の確立が不可欠だ」とした上で、「非常に限られた財源の中、超高齢社会に対応する上での最重要課題である地域包括ケアの推進に向け、継続し



た改革のためにも必要な財源配分を行うことが重要である。今回改定では、前々改定、前回改定に引き続き、少ない改定財源の中、それなりの評価ができた」と認識している。今回の改定のポイントとしては、(1) 外来医療の機能分化と(2) 医療機能の評価、(3) 地域包括診療加算及び診療料について、より一層の推進を図るため、「24時間対応」と「在宅医療の提供」について見直しを行うなど、更なる要件

緩和を行った上で、「かかりつけ医療を有する医療機関の初診の評価を行うことができた」と述べた。

また、紹介率・逆紹介率の規定を満たさない大病院の長期処方に対する処方料・処方せん料・薬剤料の減算措置の適正化や、紹介状なしで受診した場合の定額負担の対象病院の拡大が行われたことに触れ、「こうした外来機能分化の中で、かかりつけ医療の普及に向け、今後の改定で更なる評価を求めていく」とした。

(2)では、業務分担・共同の促進、常勤配置・専従要件の見直し、24時間対応体制の要件緩和など、「医療提供の質の確保に配慮しつつ、より弾力的な運用が可能となるような見直し」がなされた。 (3)では、平成29年度末で設置期限を迎える介護療養病床の経過措置が6年間延期となり、同時に介護医療院が創設され、平成30年4月から順次転換していきけるようになったことについて、「これらに合わせて介護医療院の診療報酬上の取り扱いがその機能に応じて整理されたことは評価できると述べた他、地域包括ケアシステムの構築に向けて、きめ細やかな配慮がなされたことも評価した。



今回の改定の六つのポイントを解説

引き続き行われた日医・四病協合同記者会見には、日医から横倉会長、中川・今村両副会長、松本(純)・松本(吉)両常任理事が、日本病院会から万代恭嗣・島弘志両副会長が、全日本病院協会から猪口雄二会長が、日本医療法人協会から加納繁照会長が、日本精神科病院協会から山崎学会長(代理:長瀬輝道副会長)が、それぞれ出席した。

横倉会長は、三師会合同記者会見で挙げた今回改

（1面より）

（4）では、国民皆保険の持続性とイノベーションの推進を両立し、国民負担の軽減と医療の質の向上を実現する観点から、「薬価制度の抜本改革を中核として検討し、これまでにない改革が実施されることは評価している」とした。

また、改定の度に入院基本料の要件が変更され、病院が対応に苦慮する中、「今回の新しい評価体系を各病院がどのように判断するか、従来のようにある程度の時間がかかると思われるが、中長期的な方向性を踏まえ、ある意味歴史的な改定がなされた」と述べた。

（5）では、各学会等からの提案を基に中核協の医療技術評価分科会で検討の上、新規技術及び既収載技術の再評価が行われ、「財源が少ない中、医師の技術が適切に位置づけられたことについて評価している」と述べた。

（6）では、「都道府県においては地域医療構想を策定し、医療機能ごとの将来需要に応じて限られた医療資源をより効果的・効率的に活用した医療提供体制の構築が進められている」とした上で、将来の医療ニーズの変動・多様化に加え、支え手の急速な減少が見込まれている中、「入院医療の基本的な診療に係る評価と、診療実績に応じた段階的な評価を組み合わせた評価体系に再編・統合する方向となったことは、地域の医療ニーズと資源投入とのバランスをとる上で望ましい」との見解を示した。

一方、中核協の審議の中で、重症度、医療・看護必要度の患者割合25%以上という要件に対し

て、残りの患者があたかも退院可能な患者であるかのような誤認があったことについては、不快感を示した。

また、改定の度に入院基本料の要件が変更され、病院が対応に苦慮する中、「今回の新しい評価体系を各病院がどのように判断するか、従来のようにある程度の時間がかかると思われるが、中長期的な方向性を踏まえ、ある意味歴史的な改定がなされた」と述べた。

（5）では、各学会等からの提案を基に中核協の医療技術評価分科会で検討の上、新規技術及び既収載技術の再評価が行われ、「財源が少ない中、医師の技術が適切に位置づけられたことについて評価している」と述べた。

（6）では、「都道府県においては地域医療構想を策定し、医療機能ごとの将来需要に応じて限られた医療資源をより効果的・効率的に活用した医療提供体制の構築が進められている」とした上で、将来の医療ニーズの変動・多様化に加え、支え手の急速な減少が見込まれている中、「入院医療の基本的な診療に係る評価と、診療実績に応じた段階的な評価を組み合わせた評価体系に再編・統合する方向となったことは、地域の医療ニーズと資源投入とのバランスをとる上で望ましい」との見解を示した。

一方、中核協の審議の中で、重症度、医療・看護必要度の患者割合25%以上という要件に対し

第6回「日本医師会 赤ひげ大賞」表彰式

5名の赤ひげ大賞並びに2名の選考委員特別賞受賞者を顕彰



表彰式の冒頭、主催者あいさつに立った横倉義武会長は、受賞者の日頃の献身的な医療活動に敬意を表した上で、「人生100年時代」と言われる中で、明るい高齢社会としていくためには、日頃からの健康管理が大変重要になっていくが、それとともに地域住民の方々に寄り添った形で医療を展開している赤ひげ先生に期待される役割も多様化するだけでなく、その重要性がますます高まっている」と指摘。日医としてもその活動に対してはバックアップに努めていく意向を示すとともに、参加者に対しても更なる支援を求めた。

受賞者の使命感と行動力に敬意—安倍総理
平昌冬季五輪開会式への出席のため表彰式に参列できなかった安倍晋三内閣総理大臣からは、受賞者に向けたお祝いのビデオメッセージが届けられた。

安倍総理は、住民の健康を守るうとする受賞者の崇高な使命感と行動力に敬意を示した上で、「先生方はまさに現代の赤ひげ先生」と言え、今回の受賞は全国津々浦々で地域医療に携わる医師の方々の励みにもなる」と述べるとともに、「全ての世代を通じて国民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、活躍するために、かかりつけ医を中心とした医療や介護が切れ目なく提供できる体制の構築に引き続き努めていく」とした。

静岡県の河井文健医師は、入局当時は振り返り、「寝る暇もなかったが、夢と希望を持った若い医師達が切磋琢磨していた」と回顧。「医師の仕事は時間で終わることはできないが、医師も患者も守られるような環境となることを期待している」とするとともに、若い医師達に向けては、「健康に注意しながら、赤ひげの精神をもって患者に寄り添ってほしい」と述べた。

岡山県の塚本真言医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

喜びを表し、「日々の生活が困難な地域において、最期まで地域で安心して安全に過ごせるよう、地域住民と協力し地域包括ケアシステムの歯車の一つとして、今後も尽力していきたい」と意気込みを語った。

香川県の松原奎一医師は、「学校医をしている中学で始めた小児生活習慣病予防検診は、養護教諭や地域の小児科医など多くの方々の協力を得て実現することができた」と関係者に感謝の意を表明。「実父の急死により閉院するつもりだったが、患者に必要とされ後継者だ。今では、患者の背景まで理解した上で患者に接することができるようになった。地域医療に携わることはいかとうことなのではないかと感じている」と述べるとともに、今後は、スマホを使用した食事指導を行う等、子どもの健康維持に地域ぐるみで取り組んでいきたいとした。

佐賀県の水上忠弘医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

赤ひげ大賞（日医・産経新聞社主催、太陽生命保険株式会社特別協賛）の表彰式並びにレセプションが2月9日、医学生も含め約200名の参加者の下、都内で開催された。

本賞は、現代の「赤ひげ」とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたる生活を支え、その地域のまちづくりや寄り添った活動を続けている医師にスポットを当て、顕彰することを目的として、平成24年に創設したものである。

本賞は、現代の「赤ひげ」とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたる生活を支え、その地域のまちづくりや寄り添った活動を続けている医師にスポットを当て、顕彰することを目的として、平成24年に創設したものである。

本賞は、現代の「赤ひげ」とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたる生活を支え、その地域のまちづくりや寄り添った活動を続けている医師にスポットを当て、顕彰することを目的として、平成24年に創設したものである。

「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」を開催 安倍総理を始め多くの参会者が世界医師会会長就任を祝う



「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」が2月16日、都内のホテルで開催された。

横倉会長はWMA会長になるべくしてなられた方—安倍総理

祝賀会には、安倍晋三内閣総理大臣、加藤勝信厚生労働大臣等現役閣僚、関係団体、医師会関係者の他、世界医師会(WMA)からサー・マイケル・マーマット元会長、オトマー・クロイバー事務総長、加盟国医師会から韓国医師会ムン・ジョン・チュウ会長、台湾医師会ユン・タン・ウー元会長、タイ医師会ロンナチャイ・コンサコン会長、また、ハーバード大学「H. Chao公衆衛生大学院武見国際保健プログラムから、マイケル・ラ

イシユ主任教授、ジェン・バンフ事務局長など、約1000名が出席した。

祝賀会は、中川俊男副会長が「横倉会長は2012年に日医の会長に就任されて以来、医療界のリーダーとして地域医療の再興に力を尽くしてこられた。昨年10月にWMA会長に就任されたことは日医執行部にとっても大変光栄なことであり、今後も横倉会長のグローバルな活動を執行部一丸となって支えていきたい。本日は楽しい時間を過ごして下さい」との開会の辞で開宴。横倉会長ご夫妻が入場した後、来賓から祝辞が述べられた。

ために活躍して欲しい」と述べた。

サー・マイケル・マーマット元WMA会長は、「卓越した医師である横倉会長を会長として迎えられることは世界医師会にとっても大変光栄なことである」と祝意を表した。

また、オトマー・クロイバーWMA事務総長は、「横倉会長にはWMA会長就任前からWMAの活動に深く関わって頂いている」として感謝の意を示すとともに、「WMA会長として、今後もその指導力を存分に発揮

して欲しい」とした。高久史磨前日本医学会長は、「横倉会長のWMA会長就任は医療界全体の誇りである」と強調。「横倉会長の医学・医療に関する広い洞察力は必ずやWMAにも大いに役立つものとなる」と述べた。

続いて、国際担当の道永麻里常任理事から、横倉会長ご夫妻に花束が贈呈された。

わが国の高齢化率は8%であった。それが今や27%となり、超高齢社会となったわが国がいかにしてその状況に対応していくのか、世界が注目している。明るい高齢社会としていくためにも健康寿命を延伸していくことが必要であり、引き続きその実現に向けた取り組みを推進するとともに、WMA会長として、世界の人人々の健康を守るよう努めていきたい」と決意を披瀝した。

引き続き、安倍総理、加藤厚労大臣らが登壇。「ヨイシヨ、ヨイシヨ、ヨイシヨ」の掛け声の下、鏡開きが行われた。

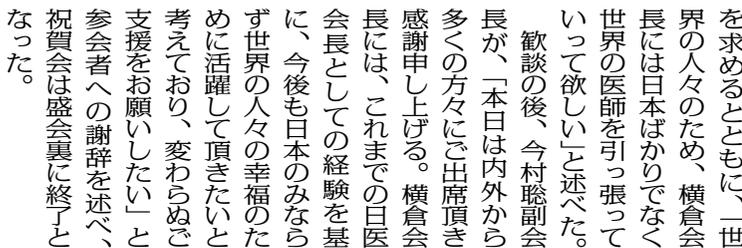
久野悟郎日医代議員会

小池都知事は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの協力を求めるとともに、「世界の人人々のため、横倉会長には日本ばかりでなく世界の医師を引っ張って

祝賀会は、中川俊男副会長が「横倉会長は2012年に日医の会長に就任されて以来、医療界のリーダーとして地域医療の再興に力を尽くしてこられた。昨年10月にWMA会長に就任されたことは日医執行部にとっても大変光栄なことであり、今後も横倉会長のグローバルな活動を執行部一丸となって支えていきたい。本日は楽しい時間を過ごして下さい」との開会の辞で開宴。横倉会長ご夫妻が入場した後、来賓から祝辞が述べられた。

祝賀会は、中川俊男副会長が「横倉会長は2012年に日医の会長に就任されて以来、医療界のリーダーとして地域医療の再興に力を尽くしてこられた。昨年10月にWMA会長に就任されたことは日医執行部にとっても大変光栄なことであり、今後も横倉会長のグローバルな活動を執行部一丸となって支えていきたい。本日は楽しい時間を過ごして下さい」との開会の辞で開宴。横倉会長ご夫妻が入場した後、来賓から祝辞が述べられた。

祝賀会は、中川俊男副会長が「横倉会長は2012年に日医の会長に就任されて以来、医療界のリーダーとして地域医療の再興に力を尽くしてこられた。昨年10月にWMA会長に就任されたことは日医執行部にとっても大変光栄なことであり、今後も横倉会長のグローバルな活動を執行部一丸となって支えていきたい。本日は楽しい時間を過ごして下さい」との開会の辞で開宴。横倉会長ご夫妻が入場した後、来賓から祝辞が述べられた。



クロイバー世界医師会事務総長



マーマット元世界医師会会長



小池都知事



高久前日本医学会長

日本医師会
 総務課(人事・労務) 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6492・医療保険課 03-3942-6490
 介護保険課 03-3942-6491・年金・税制課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6140・情報サービス課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6492・6490・6482・医学図書館 03-3942-6489

平成29年度日本医師会医療情報システム協議会

「未来につながる日医IT戦略」を メインテーマに開催



平成29年度日本医師会医療情報システム協議会が2月3、4の両日、445名の参加者の下、「未来につながる日医IT戦略」をメインテーマとして日医会館で開催され、熱心な議論が行われた。

石川広巳常任理事の総務部会が開会。あいさつを行った横倉義武会長は、「日医は、平成28年6月に『日医IT化宣言2016』を策定し、安全なネットワークを構築

するとともに、個人のプライバシーを守ると宣言した。平成29年5月、改正個人情報保護法が全面施行されたが、地域医療連携、特に医療と介護の連携の現場においては、法改正を受けて、どのように運用すればいいのか迷っている現実がある。ぜひ、本協議会で議論を深めて欲しい」と述べた。

続いてあいさつした運営委員長の長瀬清北海道医師会会長は、「昨今の地

域医療連携においては、地域包括ケアシステムの有力なツールとして、地域医療再生基金を活用した医療介護ネットワークが構築されているが、導入時の初期費用は補助金で賄えるものの、運営費の捻出が難しく、持続が困難となっているところが多いと聞いている。今後、ICTの活用はますます重要になることから、現場目線での議論も深めて頂きたい」とした。

療現場への影響について特に医療・介護連携において「では、山本和徳個人情報保護委員会事務局参事官が、改正個人情報保護法のポイントと「医療・介護関係事業者

は、BYOD (Bring your own device) の利用について問題提起がなされたが、「ガイドラインでは、原則、BYODは使わず、

山本隆一医療情報システム開発センター理事長は、ITを使った医療連携における個人情報保護の現状と課題について報告した。

また、自見はなご参議院議員は、医療界にもシステムの安全に関わる情報を共有するセクターの設立が必要であると指摘した。

その後の指定発言で

2日目の「II. 日医IT戦略セッション」では、日医のIT戦略全般について、石川常任理事が報告。「III. 事例報告セッション」では、地域医療連携ネットワークの相互接続モデル中間報告3題と都道府県・都市区医師会単位の取り組み事例4題の報告があった。

中間報告では、小阪真二島根県立中央病院院長が、医療等IDなどいくつかの前提をつけた上で、異なる地域間(晴れやかネット・まめネット)での診療情報連携(IHJ準拠)を行うための実証実験の概要と課題について報告した。

浅尾高行群馬大学未来先端研究機構/ビッグデータ統合解析センター教授は、患者個人の特定と参加同意はマイナンバー

カードを、情報を送る側・受け取る側双方の医師の認証はHPKIカードをそれぞれ用いて、群馬大学からアップロードした画像情報を日本海総合病院が受け取ること

佐藤弥山梨県医師会理事は、個人のスマートフォン内に日医の「かかりつけ連携手帳」を電子化し、PHR (Personal Health Records) として導入した医療・介護連携について報告した。

足立光平兵庫県医師会副会長は、「勤務医も含めて医師資格証を使ったHPKIによるセキュリティが高い医療情報交換が進んでいくだろう」との認識を示した上で、医師資格証の更なる普及に向けた工夫として、日医生涯教育等の受講予約の際に兵庫県医師会のホームページから医師資格証を用いてアクセスすることで、本人確認と医籍登録番号等の入力の手間を省き、当日は会場での受付から単位取得まで可能とした取り組みなどを紹介した。

南野哲吾香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授は、かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX)を活用した臨床試験の実施について説

明。「この取り組みを通じて県民に最新医療の選択肢を提供し、治験促進により若手医師が定着する方策にした」とした。午後からは、「IV. AIによって変わる医療の未来」が行われた。

佐藤弥山梨県医師会理事は、個人のスマートフォン内に日医の「かかりつけ連携手帳」を電子化し、PHR (Personal Health Records) として導入した医療・介護連携について報告した。

佐藤弥山梨県医師会理事は、個人のスマートフォン内に日医の「かかりつけ連携手帳」を電子化し、PHR (Personal Health Records) として導入した医療・介護連携について報告した。

足立光平兵庫県医師会副会長は、「勤務医も含めて医師資格証を使ったHPKIによるセキュリティが高い医療情報交換が進んでいくだろう」との認識を示した上で、医師資格証の更なる普及に向けた工夫として、日医生涯教育等の受講予約の際に兵庫県医師会のホームページから医師資格証を用いてアクセスすることで、本人確認と医籍登録番号等の入力の手間を省き、当日は会場での受付から単位取得まで可能とした取り組みなどを紹介した。

南野哲吾香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授は、かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX)を活用した臨床試験の実施について説

明。「この取り組みを通じて県民に最新医療の選択肢を提供し、治験促進により若手医師が定着する方策にした」とした。午後からは、「IV. AIによって変わる医療の未来」が行われた。

佐藤弥山梨県医師会理事は、個人のスマートフォン内に日医の「かかりつけ連携手帳」を電子化し、PHR (Personal Health Records) として導入した医療・介護連携について報告した。

足立光平兵庫県医師会副会長は、「勤務医も含めて医師資格証を使ったHPKIによるセキュリティが高い医療情報交換が進んでいくだろう」との認識を示した上で、医師資格証の更なる普及に向けた工夫として、日医生涯教育等の受講予約の際に兵庫県医師会のホームページから医師資格証を用いてアクセスすることで、本人確認と医籍登録番号等の入力の手間を省き、当日は会場での受付から単位取得まで可能とした取り組みなどを紹介した。

南野哲吾香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授は、かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX)を活用した臨床試験の実施について説

明。「この取り組みを通じて県民に最新医療の選択肢を提供し、治験促進により若手医師が定着する方策にした」とした。午後からは、「IV. AIによって変わる医療の未来」が行われた。

佐藤弥山梨県医師会理事は、個人のスマートフォン内に日医の「かかりつけ連携手帳」を電子化し、PHR (Personal Health Records) として導入した医療・介護連携について報告した。

台湾在宅医療学会来日研修 日台交流集会在開催される



台湾在宅医療学会の一行が2月5日、日医会館を訪れ、研修の一環として小講堂で行われた日本側の在宅医療関係者と意見交換をするための交流集会に参加した。

冒頭、日本側からは横倉義武会長、新田國夫日本在宅ケアアライアンス議長、鈴木邦彦常任理事、小川泰彦大阪梅田ロータリークラブ会長が、台湾側からは余尚儒同学会理事長、彭民雄台北天母ロータリークラブ会長がそれぞれあいさつを行った。

横倉会長は、来訪に歓迎の意を表した上で、日本の国民皆保険は「Universal Health Coverage」のあるべきモデルとして高く評価されており、昨年10月の世界医師会会長就任演説の中で、わが国の優れた医療システムを世界に発信し、グローバルな健康長寿社会の実現に日本の経験を生かしたいと表明したことに触れた。

また、日医会長に就任以来、「かかりつけ医の重要性を訴えてきた」とし、今後の「多死社会」においても、住み慣れた地域において、「かかりつけ医」を中心に、医療・介護の専門職、行政等の関係者が協力しながら、地域住民を支えていく仕組みとして「地域包括ケ



その後、横倉会長に台湾嘉義市の陶製の記念品及びロータリークラブ旗が授与された。

続いて、「日本の在宅医療の現状・課題・未来」と題して太田秀樹日

本在宅ケアアライアンス共同事務局長が、日本では人口構造・疾病構造・疾病概念・医療需要等の変化により、医療の役割が「長寿を目指す医療」から「天寿を支える医療」へ、「病院完結型」から「地域完結型」へとパラダイムシフトしたと説明。在宅医療における医療機器等の技術発展や多職種協働についても紹介した。

在宅看護専門看護師である田中道子日本訪問看護財団あすか山訪問看護ステーション所長は、「日本における訪問看護の現状と課題」と題して、訪問看護の現状と「訪問看護アクションプラン2025」について概説した。

余理事長は、「台湾在宅医療の現状」について、1995年から全民健康保険（医療保険）を導入したが、介護保険は未導入であること、台湾総人口2350万人の介護の主役は23万人の外国人ヘルパー（100人に1人）であること、昨年4月に設立した同学会が市民啓発活動「在宅サロン」（在宅医療を考える会）を開始したこと等を説明した。

また、「台湾包括ケアサービス」については、涂心寧居家照顧聯盟理事長が、「台湾介護10年計画2・

アシステム」を構築していくことが重要だと指摘。更に、医師が自ら研鑽し質の向上も図りつつ、現在の地域社会に求められる姿へと変革していくことを目的に「日医かかりつけ医機能研修制度」等の取り組みを行っているとした。

最後に同会長は、今回の研修が、日台両国の親善と在宅医療の推進に寄与することに期待を寄せた。

その後の、横倉会長に台湾嘉義市の陶製の記念品及びロータリークラブ旗が授与された。

続いて、「日本の在宅医療の現状・課題・未来」と題して太田秀樹日

引き続き行われた討論では、会場から寄せられた質問に各演者が回答。予定時間を大幅に超えて会は終了した。

参加者は、台湾側29名、日本側21名の合計50名で、台湾側の参加者は医師、薬剤師、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、栄養士等で、多職種の間には初とのことであった。

その後、一行は6〜9日の日程で、静岡県及び神奈川県横須賀市の医師会と行政、都内近郊の医療機関及び訪問看護ステーション等で在宅医療やかかりつけ医活動の視察を行った。



ニュースポータルサイト「日医on-line」では定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧頂けるようになっています。ぜひご利用下さい。

<http://www.med.or.jp/nichiionline/>

横倉会長

垣添日本対がん協会会長を激励



横倉義武会長は2月5日、九州がんセンターを訪れ、「全国縦断がんサバイバー支援ウォーク」

を実施中の垣添忠生日本対がん協会会長を激励した。垣添会長はこのほど、

日本対がん協会・がんサバイバークラブのサポートの下、全国のがんサバイバー(がんと診断されて治療中、あるいは治療後の人)にエールを送りつつ、日本国民にがんサバイバー支援を呼び掛けるため、全国がんセンター協議会加盟の32病院を徒歩で訪問する「全国縦断ウォーク」(2018年2月5日〜7月23日(予定)全行程約3500キロメートル)を実施することを決意。九州がんセンターが最初の訪問先となった。

※今後の全国各地への訪問予定の詳細は、日本対がん協会ホームページ(<https://www.gsclub.jp/walk>)に掲載されています。垣添会長が近くを訪問する際には、ぜひご支援・ご声援をお願いします。

町づくり

近年、いろいろな場面で「町づくり」と言う言葉が盛んに使用されている。

そもそも町とは、古来より交通の要所(便利の良いところ)に物流を中心とした経済活動が生まれ、人が集まり、住ま



リズム

ができて、生活に必要な生業(髪結い、療養所など)もその一部が自然発生的にでき上がって生まれたものと思われる。もちろん、強大な国家権力の下に強引に「都」を造

り上げた事例も認められるが、大多数の「町」は前者のパターンで成立してきたものであろう。現在、使われている「町づくり」とは、主に現存する町をより住みやすく快適なものに変えていく

こと(いわゆる、安全安心な町)、という意味に使われているが、町の存在に生活の基盤整備が必要不可欠なことは誰が考えても明らかである。では生活の基盤とは何であ

る。また、安心して生活するために、「医」は全世代を通して必須である。更に、高齢者世代になるにつれ、介護も必要となり、障害を持つ人や子育て

るだろうか?

老若男女にかかわらず、生活の基盤は何と言っても「衣・食・住」である。生産年齢世代にとっては生きるための生活の糧(仕事)の存在が不可欠であり、高齢者世代には自活に加え生活保障が必要となる。

また、安心して生活するために、「医」は全世代を通して必須である。更に、高齢者世代になるにつれ、介護も必要となり、障害を持つ人や子育て

案内



平成30年度 日本医師会医療安全推進者養成講座

◆講習内容: 月1回のペースで受講者専用のホームページに掲載されるテキスト【予定】①医療安全対策概論②Fitness to Practice論③事故防止職場環境論④医療事故事例の活用と無過失補償制度⑤医療事故の分析手法論⑥医療施設整備管理論⑦医薬品安全管理論⑧医事法字概論⑨医療現場におけるコーチング術と演習問題を中心としたe-Learning形式の講座。更に、10月14日(日)に日医会館にて開催予定の講演会に参加するなど、一定要件を満たした受講者には、日医会長より修了証を発行する。

◆受講料: 会員30000円、非会員50000円(税込) ◆締め切り: 3月15日(木) ◆受講対象者: 医療機関、福祉関連施設の職員及び都道府県・都市医師会の苦情・相談受付窓口業務担当者等で、医療の安全管理に対する強い意欲と高い関心を有する者。

◆受講期間: 平成30年4月〜31年3月 ◆受講対象者: 医療機関、福祉関連施設の職員及び都道府県・都市医師会の苦情・相談受付窓口業務担当者等で、医療の安全管理に対する強い意欲と高い関心を有する者。ただし、受講の必須条件として、インターネットを使用できる環境(ホー

座案内(<http://www.med.or.jp/anzen/ky/8entry/index.html>)にある申込フォームに必要事項を入力してお申し込み願いたい(直)

日本医師・従業員国民年金基金 案内

基金理事会・代議員会の開催 平成30年度事業計画・経理予算を承認

日本医師・従業員国民年金基金の平成29年度第2回理事・代議員会が2月15日、都内で開催された。当日は、直近の業務状況が報告された後、次の議案について審議を行い、承認された。

◆承認された議案 一、平成30年度事業計画 二、平成30年度経理予算 三、合併に向けた今後の

◆承認された議案 一、平成30年度事業計画 二、平成30年度経理予算 三、合併に向けた今後の

第141回日本医師会臨時代議員会 次第

日時 平成30年3月25日(日) 午前9時30分
場所 日本医師会館 東京都文京区本駒込2丁目28番16号

- 1. 開 会
- 1. 会長挨拶
- 1. 報 告
平成30年度日本医師会事業計画及び予算の件
- 1. 議 事
第1号議案 平成29年度日本医師会会費減免申請の件
- 1. 閉 会

いい いりょう 11月1日は 「いい医療の日」
日医では、11月1日を「いい医療の日」として、より良い医療の構築に向けて、国民の皆さんと考える日とすることを提案しています。(日本記念日協会から認定を受けました)